

地域懇談会実施報告書

◎自治会名 栄町

◎開催日 平成 25 年 8 月 27 日(火)

◎時間 19:00 ～ 20:30

◎開催場所 大原団地集会所

◎参加人数 16 人

◎懇談内容 別添 会議録



行政側参加者氏名

庶務課市民活動支援係 竹村 静哉
勝野 和子

庶務課秘書係 渡辺 宏行

記録者氏名

庶務課市民活動支援係 勝野 和子

栄町地域懇談会会議録

平成 25 年 8 月 27 日(火)19:00～

大原団地集会所

1 開会 栄町自治会役員

2 自治会長あいさつ

今日は大変お忙しい中、栄町の地域懇談会に来ていただき感謝申し上げます。今年市営住宅 A 棟、B 棟のエレベータが完成した。また遊具の鉄棒も大町市子ども遊具設置事業補助金をもらい完成した。市長には感謝申し上げます。また、これから 2 つの遊具の設置予定があるがよろしくをお願いしたい。

本日の地域懇談会が有意義になるようお願いしたい。

市長あいさつ

今日は栄町の皆さんにお集まりいただき、地域懇談会を開催することができた。心から御礼を申し上げたい。栄町の皆さんには、直接市政に係わるご提言や意見をいただき大変お世話になっている。

長年の懸案であった大原団地の A 棟 B 棟のエレベータ 2 基が 3 月に設置でき、これも皆さんのご熱心なご提案があったからと御礼申し上げます。そしてまた、児童遊園地に遊具を設置する懸案についても、積極的に意見交換をしていただき、具体化できた。まず鉄棒が設置され、引き続き来年、市の制度を活用してジャングルジム等の設置を考えている。

意見交換の冒頭、市政の抱えている 3 つの課題の報告をしたい。

1 つには定住促進に昨年から取り組んでいる。これは市の長期計画、第 4 次総合計画の中の後期 5 か年計画が昨年からスタートしているが、その中の重点的に取り組む大きな課題の 1 つである。今住んでいる人にも住み続けてもらい、またより多くの人に帰ってきててもらいたい。また新たな人たちを迎え入れるという取り組みを進めている。

2 つ目は、地域の活力を維持していくためにも、産業振興が大事なテーマである。

3 つ目は、大震災の後でもあり安心安全に暮らせる地域づくり、その中には若い人たちの子育て支援、また高齢者の医療、介護、福祉があり、この問題も 3 つのプロジェクトの中で解決していきたい。

定住促進は、大町市の人口が 3 万人を切るようになった。東京以外はほとんど減少していて、もちろん長野県全体でも減少している。地域を守っていくこと、経済の活力を維持していくためには、一定の数の人々に住んでもらうこと

が大事であるということで取り組んでいる。子育て中の皆さんには、子どもたちを健全に育てていただくことが、将来地域を担っていく力を育てていくことになる。子育て中が一番お金のかかる時期でもあるので、大町市では、出産祝金に第1子が10万円と他の地域に比べても高水準を保っている。それに加え3歳になると幼稚園、保育園に入園するということでお金のかかる時期になる。また小学校入学のときもお金がかかるということで、その時々で一人のお子さんに対して3万円の大町市の商工会議所が発行する市内で使っていただける商品券をお贈りしている。すでに相当数をお贈りしている。

市内で住宅を取得したり新築したりしていただくと、1軒当たり20万円のお祝い金を差し上げる。若い世代の方や市内の業者に頼んでいただいた方には上乘せがある。また、市のケーブルテレビに加入していただいた方には、工事費として上限4万円の上乗せがある。これからも市民の皆さんに住んでいただく施策を打ち出している。また、移り住んでくれる方やIターン、Uターンで就業されている方に、それぞれ3万円を差し上げている。そうしたお祝い金、奨励金などを差し上げることで効果があるのか根源的な疑問はあるが、何もしないでいるよりも大町市は定住促進にしっかり取り組んでいることを大勢の人に知ってもらうことで、移り住んでも地域に帰ってきててもなじんで暮らしているという理解が得られるのではないかと思う。

また、そうした誘導策だけでなく、大都市で定住促進の窓口を開いている。東京で様々な催しがある時は大町市も参加している。パンフレットを配り、「大町市にお越しく下さい。」とキャンペーンをやっている。そうした中で、大町市とはどういうところかという移住の体験ツアーを組んでいる。6月、7月に募集したところ、32世帯の皆さんの応募があった。その皆さんを市内の様々な場所に案内し、また移住された皆さんの体験談などを聞いていただいた。32世帯のうち3世帯の移住が決まり、すでに住んでいただいている。爆発的に人口が増えるわけではないが、少しでも人口減少に歯止めをかける努力をしたい。そのことが地域をより魅力のあるものにする。大勢の皆さんを受け入れるという努力の中に、行政もそうだが、地域の皆さんもあたたかく受け入れていこう、町をきれいにしよう、町を活力あるものにしていこうということに繋がっていくのではないかと、そうした効果も期待している。

2つ目には、市民の皆さんの利便性を高めるためにも、製造業や産業のためにも、観光客の皆さんの利便性を高めるためにも、地域高規格道路・松本糸魚川連絡道路が構想されてもう40年になる。長野県の中で直接高速道路にアクセスできないのは、19市の中で大町市だけである。木曽谷にも高速道路はないが、木曽谷には市はない。19の市のほとんどが容易にインターチェンジにアクセスできる。大町市は安曇野インターに行くまでに、上橋のあたりから3

0分かかる。30分というのは近いと言えば近いが、例えば工場立地の条件は、高速道路から15分圏内と言われている。実際に大町市では15分圏内でなくても立地をしている産業もあるので、これだけが決め手というわけではないが、資材を運び込んだり製品を送り出したりするためには、やはり高速道路があるということが重要な要素となる。

観光客にとってもそうである。大勢の観光客に来ていただくが、帰っていくときに、週末の3時過ぎになると大王わさび農場のあたりで渋滞が始まる。その先の重柳の交差点では、信号3回待ちくらいの渋滞が毎週のようにある。私も先週ちょうどその時間帯に南から帰ってきたが、渋滞があった。渋滞があると思えば楽しく帰っていく観光客の皆さんが、もう一度ここに来ようとする気も失せてしまう。そういう観光客の利便性も考えないといけない。

また、夜間国道は大型トラックが通過する。私の住んでいる泉も、夜間蓮華大橋を渡る大型トラックが、キーンという金属音を発して走っていく。周辺の住民の皆さんにとっては、通過する交通はスムーズに通ってもらうことが重要である。もちろん大町市内に用事がある、あるいは大町市に来ていただいた方には止まっていたいただかなければならない。けれども通過する交通をいかにスムーズに流すかは、夜間の騒音の問題だけでなく、排気ガスの問題もある。

そのためにも地域高規格道路は必要である。計画では、安曇野インターの北側に新しいインターを造って、そこから堤防道路までの約4Kmは新たな道路を造る。そこから北は現在ある道路をできるだけ活用しながら糸魚川まで、北陸自動車道の入口まで約90Kmあるが、そこを順次整備していく。特に新設する道路については地域の説明会が始まっている。安曇野市でも県の説明会が10回を越えている。ただ市の説明会は1回しか開催されていないので、全体像が固まる中で大町市にとっても大事な南のアクセスを何とか改良してもらいたい。

県は県全体の中での松本糸魚川連絡道路の構想を発表した。その中で大町市から長野道までのアクセスを最優先で取り組んでいきたいと言っている。2番目には、現在冬の間渋滞が起こっている木崎湖から青木湖の間は道が1本しかないので、優先的に改良していく区間になっている。それから大町市街地と白馬村はどのように迂回するか、街中を通すのは様々な支障がある。大町市では今都市計画を作成していて、その中でどう位置づけるかということでは意見集約ができた。その中では、4車線のバイパスの真ん中2車線を立体交差化するという案と、西ルートの大原を通過して木崎湖に行くという案もあったが、最終的には東ルートは農具川の東側を木崎湖に抜けていくのが距離的にも短いということ、それから地区を分断する心配が少ない、アルプスの景観が一番いい、といういくつかのメリットがあり集約された。特に大町市は、東側のアク

セスが非常に良い。東からは山清路の国道19号線から、長野市からは小川村を通過して三日町に出てくる。まだ案で最終決定ではないが、大町市は東ルートで作業を進めていこうと思っている。

それから先ほど現在の道路をできるだけ活用したいと言ったが、高瀬川の西側を通る右岸道路は、皆さんが通る時には実際には70kmくらいで走っていると思うが、現在でも小さな立体交差化は進んでいる。大王わさび農場までは信号が2つしかない。それ以外はミニ立体交差になっている。安曇橋の西、高瀬大橋の西側の2つが信号で止まるが、これを改善してスムーズに通れるようにというのが今までの案である。今は上り下りの2車線であるが、どちらかを2車線にして変則3車線にするという案もある。その場合には松川村の地籍は道路際まで新しい家がずいぶんできていて、計算すると60軒に移ってもらわなければ道路は拡張できない。それについては、大町建設事務所が村と協議しながら果たして西側が良いのか、東側の左岸に移した方が良いのか比較しながら検討を進めている。東側はほとんど農地で住宅がないので、用地を譲っていただくのも容易である。またノンストップで来ることを考えると、新しい道路を造れば安全でスピードも確保できるというメリットもある。

建設費がどうなるかということもある。建設事務所では、ペーパーロケーションとして、具体的に地図に落として概略設計をして様々な観点から比較して絞り込んでいる。来年の春までには案を固めた上で地元と協議をすると伺っている。先程も申し上げたが40年、計画が具体化して20年になるので、できるだけ早く着工できるところから始めたいと考えている。

なおこの道路の小谷村の地籍では、外沢トンネル、小谷の道の駅から姫川に向かって山に登ってくるところがずいぶん急傾斜で狭い。冬に大型トラックが滑ってしまうと、すぐ交通渋滞が起こる。そこは国が直轄事業として改良を進めてきて、後500m残っている。今年200m、来年300mということで平成26年度には完了する。そこは立派な規格になっているので、地域高規格道路の一部に組込まれることが想定される。もう一つは小谷村の雨中地区、月岡地区は道路の両側まで家が迫っていて、時々夜中に大型トラックが民家に飛び込む事故が起こっている。県はいち早く調査を進めて、今年から事業化が進められている。設計がすんで集落を迂回するための1kmのトンネルが2つ、そのための地権者との用地交渉、用地測量が始まっている。用地交渉がまとまれば、来年からはトンネル工事に入ると期待している。この大きなトンネルも地域高規格道路に組み込むことになっている。だいぶ時間が掛かっているが少しずつ動き始めている。工事が早く進むよう頑張っていきたい。

使う時は無料であり高速道路と違い身近なところにインターチェンジが造りやすい内容になっているので、市民の皆さんにも使いやすい道路としてご利用

いただけるのではないかと思います。完成するまでにはだいぶ時間が掛かるが、粘り強く事業費を確保するよう頑張っていきたい。先週、北陸地方整備局、関東地方整備局、国土交通省本省と地元出身の国会議員、全部で25人程だが全部を回って一日も早い着工をお願いしてきた。

3つ目の問題は、広域連合で進めている一般廃棄物処理施設の問題だが、昨年12月源及地区を建設予定地と決定した。今年の春、地権者の皆さんの合意を進めながら広域連合と関連の3市村の予算を計上し、3月議会の議決をいただいた。そして現在、現地の測量と地質調査を発注した。1年間かけて行う生活環境影響調査も発注した。それは1年間かけて、排気ガスの影響が出るかどうか、騒音や動植物に影響が出ないか、気象状況がどうか、風向きがどうか、影響が出ないように1年間かけて専門業者が調査する。その調査の結果、周辺住民の皆さんから出されている問題を確認し、影響が出ないことを確認し実際の工事に入っていく。1年かけるのでまだまだ現場は動かないが、粘り強い取り組みを進める中で、周辺の皆さんのご理解をいただきたいと思います。平地区西部6地区のうち5地区については賛同をいただいているが、温泉郷観光協会と温泉郷の自治会の皆さんからは反対だと言われている。周辺の住民の皆さんから同意を得られなければ建設を進められないということではない。法律により手続きが制約されているわけではないが、温泉郷の皆さんが、煙突が建つのは観光客の皆さんが敬遠してしまうのではないか、あるいは排気ガスの影響が本当にないのかと心配するのは心情として良くわかるが、その点についてはしっかり意見交換をし、最先端の施設を見ていただくことで、安心してもらえるのではないかと。全国で、地方公共団体が設置する一般廃棄物処理施設は、1,200ヶ所ある。その中で、周辺に景観や環境に悪影響を出しているところは1ヶ所もない。東京では市街地の真ん中にある。また、高層マンションの脇に同じ高さの煙突が建っていることも珍しくない。県内では飯山市で一番新しい施設を造っている。そこでも周辺の悪影響はない。金沢市では小学校や市営の体育館のすぐそばに立地している。温泉郷から今予定している源及地区までは、直線距離で1kmくらいある。建設予定地は林の中なので、できるだけ林を利用して心情的に嫌な気持ちを緩和する研究をしていきたい。気持ちの問題が絡んでいるので、粘り強く対話を重ねて理解をいただくよう努力したい。国から本年度の補助金の内示もいただいているので、予定通り準備を進めていきたい。

市政の課題について、大勢の皆さんのご理解をいただきながら進めているが、なお至らない点もある。そうした点について、ご意見、助言をいただきたい。

○出席者

住宅が17年11月に完成し8年が経過した。陳情の中の1つだが、今25世帯の小学生がいて、中学生を合わせて70名児童がいる。児童の通学路の安全のことだが、昨年西小学校の周辺を、ゾーン30にするという計画があった。1日も早く児童の安全のため明記し、ドライバーに徹底してもらえるようお願いしたい。

A棟、B棟のエレベータが完成し高齢者は大変喜んでいる。3階は高齢者を入れないよう行政をお願いしたいという話があったが、エレベータの完成により利用できるようになった。

昨年から老人クラブもきらり輝く協働のまちづくりの花作りをやらせていただいている。昨日現地調査の結果が送られてきて、5点満点の4点いただき大変感謝している。自分たちでできることは、自分たちでやらなければならない。

一般ゴミ処理施設の関係で温泉郷のチラシを見た。個人的にはあの地域は林に囲まれていて環境としてはいいと思う。煙突が見えることは少ないのではないか。煙突から人体に影響のあるものが出ないなら、一日も早く着工ができることを心から願っている。

○市長

栄町周辺は、道路があまり広くなく歩道が少ないということで、通学路の安全確保に頭を悩ませていることと思う。今までも通学路に歩道を設置してほしいという要望が出されていたが、朝晩は通学路として使用しても日中は歩行者がほとんどないので、ここに歩道をつけるより他にもっと使用頻度が高く交通量の多い所もあるので、優先順位的には低いと思う。そのためにゾーン30という提案をしている。ご存じない方もいると思うが、これは学校のそばで通学時間帯はなるべく車を排除する、またどうしても通行しなければならない時は時速30km以上では走らないようにしようということで、交通規制で30キロに規制し、なるべく入らないようにするものである。それは一定の区域ということで、昨年西小の周辺を指定して始めている。その場合、保護者の皆さんにも安全指導に立っていただくご協力をしていただいているようだ。この地域が該当するかどうか、例えば北小学校の周辺であれば、いろいろなところから集まってくる子供たちを面的に守っていく必要性が高まるが、ここの子供たちの通学路の一部だけ指定して取り組むことが可能かどうかを含めて、持ち帰り検討させていただきたい。場合によっては時間を決めて30kmに制限する方が良いかもしれない。どちらが効果的か含めて検討させていただきたい。いずれにしろ、子供たちがいれば通学路であってもなくても歩行者を優先して運転するのが交通法の鉄則なので、その呼びかけもしていきたい。

エレベータの設置は2基で3,000万円以上の費用が必要となった。新しく作るところであれば、工事費の中に組み込むことができるので難しいことではないが、大原団地はすでに出来上がっていてグレードも高いので、なぜ大原団地だけ経費をかけるのかという意見があり、対応がなかなか進まないということもあった。実現までに時間がかかったが、ようやくご不便を解消することができた。入居した時はまだ大丈夫だからと高い階に住んでいた方も、毎年毎年足腰が弱ってきて不便になったという方も当然いると思う。そういう方にも使っていただけるようになった。ただエレベータができたからと言って、高齢者が安心かというそういう問題ではない。一人暮らしの高齢者が病気になったが周囲の人は気が付かなかった。大都市では孤独死という新しい社会問題が起こっている。室内に異常を知らせるベルを設置している世帯が多いが、もし昨日から姿が見えないと思えば隣同士声をかける。これは団地であろうがなかろうが同じであり、日頃からコミュニケーションを大事にしていきたい。

花づくりの話が出た。なぜ協働が大事かという点、昔でいえば、地域の課題は様々な経験で解決できることが多かった。しかし、現在は、今までに経験したことのない急激な高齢化、人口減少など、過去の経験が役に立たない状況である。そんな時は行政だけがいくら考えてもいい知恵がでない。そういう時に市民のみなさんにも一緒に考え、提案していただくことが重要である。

財政資金が豊かな時はお金で解決できた。今、国も地方も財政が大変厳しい。大切な税金に優先順位をつけて使っていかなければいけない時代である。市民のみなさんからしっかりご意見をいただき、その優先順位を絞り込み一緒に決めていきたい。みなさんの行政への参加が非常に大切になってくる。そうしたことからどこの市町村も協働ということに取り組んでいる。その中でも大町市は比較的早く取り組んだ。身近な地域づくりの中で、行政に頼らなくても自分たちでできる、花で町をいっぱいにする活動などは、まさに協働のまちづくりの第一歩だと思う。それに対して行政からの支援は、協働のまちづくりの支援金、1,500万円を毎年用意して使ってもらっている。これは花づくりだけでなく、地域づくり、地域全体の問題を解決するための市民活動などにも使ってもらっている。これからもこの助成制度はなんとか維持していきたい。

4点目に、ごみ処理施設について提言いただいた。できるだけ自然環境に優しく、ゴミ処理は適正に行われているということを市民の皆さんにも、観光客の皆さんにも知っていただく教育的な場とすることを合わせて考えていきたい。例えば先ほど申し上げた飯山市の新しい施設、エコパーク寒川では地域の皆さんが集まって石鹸作りをしたりする、地域活動の場を備えていたり、外からの視察も受け入れるように、建物の中は見学の順路があって、ごみがどのように搬入されて、ストックされ、処理されるか、処理された灰はどのように運び出

されるか見学できるようになっている。大町市の施設も可能であれば大勢の観光客にも立ち寄っていただきたい。

現在でも行政視察に来る方もずいぶんいるようだ。例えば大町は、小水力発電が早くからスタートしている。大町新堰に東京電力の 1000 k w の小水力発電所ができています。またそれに先立つこと 5 年前に、社地籍の町川という農業用水路の池田町に流れる川の落差を使い、市が国の外郭団体の補助 8,000 万円をもらって小水力発電所を建設した。140kw、40 世帯分の電気をおこす小規模のものだが、ここにも年に 60 組くらいの行政視察が来ている。その方たちには、必ず大町温泉郷や大町市内に宿泊していただくようご案内しており、そうしたことにより観光にも結びついている。この一般廃棄物処理施設が、最先端の技術を用いて大勢の人に見ていただくよう見学の場を設け、市民の皆さんの環境学習の場として活用できればと思う。きちんとした施設を造るので、市民の皆さんも分別収集にはご協力をいただけたらと思う。

ちなみに大町市は自治会の取り組みが早かったこともあり、分別収集が徹底している。ペットボトルはきちんと洗って出していただいているので、プラスチックに再生する時にきれいな原料となる。2 年くらい前にペットボトルのリサイクル協会から表彰状と 400 万円の奨励金をいただいた。その 1/2 を市のごみ処理対策に使わせていただいたが、残りの 1/2 はご協力いただいている自治会に配分をした。そうした評価もいただいているのでこれからも分別収集の徹底、きれいなリサイクルができるよう、引き続き努力をお願いしたい。

○出席者

安曇病院に通院する場合や池工に通学する関係でお願いしたいことがある。池工に通う子供は、現在大町駅まで自転車で行き、電車に乗り松川の駅から自転車に乗り学校に行っている。通うに大変な上、自転車が 2 台いることになる。今新しい高校が出来ているが、出来れば池工に通う子が増える。今は明科に行くバスがないので明科線のバスの運行は考えられないか。また、安曇病院に行くのにも不便である。一度宮本で池田のバスに乗り換えなければいけない。どちらにしても池田に行くのは大変不便である。何とかスムーズに行けるようにならないか。

もう 1 つは、保育園の跡地の具体的な考えはないか。

○市長

新しい高校、大町岳陽高校は、平成 27 年度までが大きな工事で、最終的な工事は平成 28 年になる。新しい高校になったから大町市の子供の入学が制約されることはない。なぜかと言うとクラス数は増えるからである。子供の数は減っ

てくるが、大町高と北高を統合してしっかり必要なクラス数を確保するので、池工に多く通わなければいけないということにはならない。

池工に通いたい子は当然いる。その子の足を確保するというのは大きなテーマである。そこで現在は大町市では市民バス、池田では町営バスが運行されているが、そのアクセスの調整について昨年から真剣に取り組んでいる。例えば、大町病院で診察を受け安曇病院で他の診療を受ける場合、病院間を巡回しているバスがあれば便利である。特に、交通弱者と言われる免許を持っていない方、高校生、高齢者の皆さんには利便性が高くなる。それを本気で調整したが、池田からノーと言われた。町営バスを運行している会社がタクシー会社だが1社しかなく、一切よその地域からバスを乗り入れるのは許さないと言われた。その改善策として、大町市民バスは社の山の寺まで、池田の町営バスも正科まで来ているので、10分以内に乗り継ぎができるようにした。4年前に改善してうまくいっていたが、JRのダイヤが改正となり、それに合わせて池田町が時刻を変えてしまったため、この3年間ほど接続が非常に悪かった。今回改善して乗り継ぎがうまくできるようになった。ただ、乗り継ぎがないと南にいけないということはある。本来は、市町村を越えてバスを通し、行き来できればいいが難しいことである。それから路線バスを活用できないかということだが、昔は路線バスがたくさん走っていて大町明科線もあったが、今は廃止され、大町市内も大町駅から扇沢駅までの観光客を乗せるバスは別として、営業としての路線バスはない。

○出席者

長野線はないのか。

○市長

長野線はある。特急バスと言われていて路線バスとはまたグレードが違うものである。おとといアルピコ交通の幹部に要請に行った。アルピコは、大町長野間の特急バスを運行しているし、市民バスやスクールバスも受託運行している。この路線の充実強化についてお願いに行ったが逆のことを言われた。利用者が少なければ、廃止しなければならない。大町だけではないが、マイカーが増え利用が少なくなり充実するより店じまいしたいくらい言われた。そうした中で、利用者が少なくなつて廃止された路線を復活させるというのは極めて難しい。松本市内、長野市内でも路線バスが廃止されている。それを補うため、地方公共団体が運営する市民バスがそれを補完する役割をしているので、一番現実的な方法は、市の路線バスが両地域に乗り入れられるのが一番いいが、これもそれぞれの市町村の事情があり容易ではない。常盤地区が一番安曇病院に

行く人が多いので、部分的な改善に南部の改善は動き出している。ただ、池工に通う人数が少なければ実現は難しい。研究し何かいいアイデアがあれば取り入れたい。

保育園の跡地は、公共施設の建設予定はない。それぞれの課で跡地利用について検討したが、利用するという計画はどこからも出なかった。民間に分譲する、或いは地域の皆さんが何か利用するということであれば、総合的に検討しなければならない。人口が増える時代なら、公共的な使い方や民間の皆さんの知恵を実現するということもあるが、こういう時代なので、今ある施設を有効に使うことが精いっぱい、新しいものを造るということは難しい。いい知恵があったらご提案いただきたい。

○出席者

以前役員をやった時に募金を市役所へ持っていった。担当者が席を外していて、担当でないと領収書が出ないと言われ、待たされた。今もそうか。普通であれば対応できるはずである。担当でないとだめなのか。

○市長

その募金は日本赤十字社へのお金だったと思うが、担当者以外が領収書を切ることは、お金の管理がずさんになるという問題がある。日本赤十字社に寄付をするために領収書を切るということなので、市の公金とは違い領収書の用紙、印鑑を所管するのは責任のある担当者1人しかいない。あらかじめご連絡いただければ担当者が用意しておく、或いは担当者から委任を受けた者が預かるということもできるが、そうでなければ担当以外はできないことになっている。事故を防ぐ1つの方法であるのでご理解いただきたい。

市の税金の支払いなら、窓口に何人もの職員がいるので誰でもできるが、たまたま特殊なお金の支払いだったということだと思う。

○出席者

大町は山があるためか放射線の値が高い。長野市は低く、新聞を見るたびどうしてか気になる。

○市長

そのご質問が多くある。山が高いからではなく自然由来のものである。西山一帯は花崗岩の山で放射性物質が含まれている。蓮華岳の南、野口五郎岳、燕岳は真白であるが、そうした花崗岩の山には必ず自然の放射性物質が含まれている。高瀬川も乳川もこの辺りの川は高い。自然由来のものなので、何万年前に測っても今と同じ高い数値だと思う。これは人体に影響のあるレベルではなく、逆にすずむし荘は、ラドン温泉と言って放射線が体に良いと言ってい

たくらい自然のものである。この説明については市のＨＰに詳しく載っているので覗いてみてほしい。

自然由来のものでなく、福島原子力発電所の事故の影響は、例えば農産物、米などが影響される場合がある。大町は今までに検査で１回も出たことはないので、大町の農産物は安心して食べていただける。

昨日もその方面に専門の方とお話したが、日本人は気にしすぎるとおっしゃっていた。例えば 0.00001 でもダメ、危険だと思う人もいるし、今まで原子爆弾の実験を世界中でやってきたが、それにより影響が生じたという報告はなかったのも、大丈夫という人もいる。それほど安全に対しての認識は個人差がある。その方は、普通に大丈夫と言われているところに危険はないということだった。危険というなら飛行機に乗らない方が良いと言う。飛行機は、1万m以上の高度で飛ぶときは、宇宙からの放射線がたくさんで危険である。パイロットなどはむしろそちらの方の危険を考えるべきだと言っている。普通に暮らしていく上では危険性はないというのが、一般的な考えであるとのことだった。

○出席者

ごみ焼却所のことだが、勉強不足で何が最新かわからないが、ごみの焼く温度により出た灰を、舗装やセメントに混ぜて再利用できると聞いた。それからゴミを焼くことにより水蒸気をおこして電気に利用できる。そうした利用できるものは利用する施設になるのかどうか。冬になると北風が吹くが、北に造って私たちの住む市街に流れてきても大丈夫なのか不安がある。

○市長

ゴミを燃やして出た灰を溶かして再利用する方法は、熔融炉と言って技術的には可能である。県内でも規模の大きなところはそうした方法を取っているところもある。ただこれは、規模が大きくて相当の灰が一定量出るところである。それには助燃材を使い相当の高温で灰を溶かして、灰が燃えた後溶けるには新たなエネルギーを付加してあげなければならないが、エネルギーを燃やして熱くして溶かし、安定した状態にして道路の路盤材などに使うところもある。それをやるには設備費が相当かかる。大きな施設になればなるほどやりやすくなる。3市村では引き続きゴミの減量化を進めていく。また、人口減少を考え、観光客が相当大勢みえても40トンの規模で処理する計画になっている。40トンという規模がどのくらいかというと、例えば、安曇野市の穂高クリーンセンターが150トンあり、その4分の1の規模である。そうするとそこから出る灰も非常に少ない。したがって熔融炉という考えはコストの面からも考えていない。それは、現在大町市の高根にある最終処理処分場に安定した状態にして埋めていく計画である。熔融炉について適用は難しい。

2 番目に、燃やした時にエネルギーが回収できる。炉が熱くならないように水で冷却するが、その水は当然お湯になる。そのお湯が水蒸気になったものを水蒸気発電に使う方法もあるし、道路の下に入れて雪を解かす融雪施設に使う方法もある。40 トンの炉から取れるお湯の量は、1 日に 25m プールの 1 レーン分しか取れないので、施設の職員や近隣のみなさんが入浴施設として使うというのが 1 つのアイディアである。それから先ほど申した雪を解かすロードヒーティングに使えるか確認していきたい。せつかくとれるエネルギーなのですべて回収したいと考えている。

それから 3 つ目の自然環境破壊はないかというご質問だが、今青島にある施設は 27 年も経っている。毎年 1 億円の修理費をかけながら、有害な排気ガスが出ないように管理しチェックをしている。その結果、青島地区で環境に対する影響はどこにもでていない。そこから 1 k m 北にある大町市の一番南部の市街地にも影響があるということはない。現在の技術水準でもクリアしている。風がどこから来ても特殊な地形でない限り、周辺に廃棄ガスの影響が出ることはまずないと考えてよい。風向きにより排気ガスの流れる方向は違うが、青島地区の南の地区にも北風の強い大町市でも影響はない。またすぐ近くに高瀬川、農具川があるが、表流水に影響が出ていることもない。地下水に影響があるのではということもあるが、現在青島地区の近くには、池田の上水道の水源地があるが全く影響はない。今回の源及地区の北、約 2 k m 位のところに矢沢水源があるが、地下水を全く空気に触れることなく配水池に運んで消毒して配っている。大気に触れる可能性がほとんどなく、廃棄ガスが地面に着いてそれが影響するということも考えられない。東京など大都会では、川の表流水を水道水にしているが、一般廃棄物処理施設に限らずありとあらゆる所から排気ガスが出ている。その表流水をろ過して飲むが、影響していると聞いたことはない。また浄水場はプールの状態になっているが、排気ガスが影響しているということはない。大町の主力な水源は 6 つあるが、すべて地下水を大気に触れることなく上水道に使っているので、仮に排気ガスが出たとしても、排気ガスに触れることもほとんどないし、影響はないと考えてよい。それについては先程申し上げた生活環境調査できちんと検証していきたい。

○出席者

大町ダム強度についてお聞きしたい。地震のたび点検しているのは聞いている。それでも想定外のことが起こる時代になっている。ここの避難施設は保育園である。ダムが決壊すると逃げる暇もないだろうがとても心配である。

○市長

ダムそのものが決壊することについては、絶対という言葉は使ってはいけな

いが、ほとんどないと考えてよいというのが定説だ。なぜそれが言えるかというと、日本国内で近代的な工法で造られたダムが破壊されたという話は聞いていない。東日本大震災でもダムはたくさんあるが、コンクリート製のダムが決壊されたということはなかった。1つだけ被害が出たのは、昭和の前期から造られ戦後に完成した農業用の灌漑ため池、ダムと呼んでいたが、土を固めて造ったので、液状化で流れ13人だかが亡くなられた。しかし、現在のダムの施工基準に沿って造られたダムは大丈夫であると言われている。ただダム直下の活断層が動いた場合は、ダムの堤体に被害が起こることもあるかもしれない。台湾でもここ何十年かの間にそういうことがあった。ほとんどの場合は、ダム直下に活断層があるかどうかは計画の段階で調査は行われているはずであるし大町ダムでも当然調査は行われている。2、3年前、野口の地域懇談会で同じ質問が出された。今と同じ回答をしたが、出席者の中にダムの建設に携わった方がいて、実際立ち会った立場から詳細に説明された。その時私も一般的に言われていることは正しいと認識した。絶対ということは言えないが、経験からしても大丈夫である。でも、実際起こるとどうなるかわからない未知数の部分があるので、科学的な検証が行われればより正確に皆さんにご理解いただけたと思うが、ダムのシュミレーションをすることはなかなか難しいので、東日本大震災のような経験を踏まえても、近代的な工法で造られたダムは破壊されないと考える。特に重力ダムは、ダム自体の重さで堰き止める方法なので、コンクリートの塊と考えればより強固な構造を持っているダムと言える。一般的に考えれば破壊されることはなさそうだとと言える。

○市民

市営住宅のE棟に住んでいるが、共用階段の蛍光灯がセンサーになっているがここ4、5年うまく作動しない。再三その年の組長が連絡していると思うが、直らない。見に来ているのかどうかもわからない。

○市長

早速担当課に伝えたい。時間で点灯し時間で消灯するのはもったいないのでセンサー式にしてほしいという意見が出て、今日も来る前に現在の状況を確認してきたが、センサーに切り替えるのは1灯あたり15,000円くらいかかり、何灯もあるので難しいと聞いてきた。今のご発言は、すでにある電気の球が切れているという維持補修の問題なので、十分な管理が行き届かなくて申し訳ない。すぐに対応したい。

○出席者

平成23年から25年の限定事業ということでリフォームの補助があるが、25年以降は考えていないのか

○市長

今真剣に検討している。住宅リフォームは上限 20 万円で、平成 23 年度の途中からスタートした。市民の皆さんの住環境を改善するという趣旨と、長引く地域経済の低迷を、何とか助成事業を起こすことによりテコ入れをしていこうと考え、平成 23 年から 3 年間の時限的な事業である。当初は 2,000 万円くらいの規模で始めたが、毎年要望がたくさん出てきて昨年最終的には 7,500 万円の予算がかかった。今年もすでに 6,000 万円を超えていて 9 月に追加補正をし、7,500 万円かかる予定である。7,500 万円を市が用意して、そのだいたい 6 倍から 7 倍、5 億円の発注量になっており、極めて地域経済効果が大きいということがわかった。地域経済が立ち直ればテコ入れしなくても、民間の消費経済の中で景気が拡大していき止めることになる。ところが、今地域経済が目に見えて拡大していくかと言えばそうではない。安倍ノミクスで大都市ではだいぶ経済が回復しているというが、それが地方にも伝わってくるのに 1 年半から 2 年かかると専門家は言っている。大町に景気の回復が伝わってくるのにもう少しかかるとすれば、もう少しテコ入れをしていかなければならないのではないかという意見が出ている。また、消費税が 8 % に上がるとすれば、今年は市内のあちこちに住宅新築が見られるようになったが、それは駆け込み需要だと言われており、来年の 4 月から消費税が上がると、消費がパタッと止まってしまう可能性が出てくる。リバウンド、駆け込み需要の後の反動になるが、そうした場合住宅リフォームのような市からのテコ入れ策が必要になってくるのではないかと、今見極めをしているところである。今年の 12 月の、新年度の当初予算を編成するまでには、議会とも相談しきちんと決定していきたい。継続していくには少し内容を変えていくのかどうか、検討を進めていきたい。

○出席者

こぶしの跡地は使わないと草がでて蛇もでる。定住の住宅地はどうか。それと保育園の北側の空き地が雑草だらけになっている。水路がありそこにも雑草がたくさんで溢れてしまう。保育園の園児がお散歩しているようなので、なんとかしてもらえないか。

○市長

こぶしの跡地は一般的な財産として市が管理しなければならない。近隣の皆さんにご迷惑をかけないように、草刈りをやるのが原則である。もしやっていないとしたら不適切なので、持ち帰り管理するよう担当課に伝えたい。くるみ保育園の北側については市の土地であればこれも併せて担当課に伝えたい。ご迷惑をおかけした。

○出席者

今年はとても暑かった。中学は綺麗になったが小学校の暑さ対策はどうなっているのか。

○市長

小中学校ともに冷房完備はなく扇風機で対応している。保健室には冷房がある。県内ほとんどの小中学校で冷房はなく、扇風機で対応している。大町高校は冷房どころか扇風機もない。今は仮設建物なので暑さ対策ができないため冷房が入っている。生徒たちはこの方が快適だと言っているようだ。

大町は空気が乾燥しているため、風さえ吹けばだいぶ暑さは緩和できると言われているが、今年のように暑いと考えていかなければいけないと思う。

県下でも子供たちの暑さ対策について議論になると思うが、大町は率先してやる地域ではないと考えている。

○出席者

カラスがいる。その対策は。

○市長

カラスの数が増えているのかわからないが、集団で見かける。3年前にカラスが集団で三日町に居ついてしまったことがあり、駆除に取り組んだが効果は少なかった。有害鳥獣対策の第一は県であり、実際には市町村がやるのを応援するという形である。広域的な駆除が必要ということで、かつて東信で大きな檻を造ってカラスを呼び寄せ一網打尽にするということだったが、カラスは非常に頭が良く、1回目は餌につられてカラスも集まったが、2回目以降は檻で捕まえることはほとんどできなかった。住宅の近くにたむろしているので鉄砲を打つわけにもいかない。追い払うのに精いっぱい状況である。有効な対策がなかなかないということである。

農作物に被害があるなら取り組まなければならないが、規模が小さいというのはなかなか難しい。

3年程前に、高瀬川の上流にアオサギがずいぶんいた。市の運動公園のカラマツのてっぺんに巣をつくっていたが、この1、2年はいなくなった。移っていくという傾向があるかもしれないが、カラスがどうかはわからない。農林水産課に確認したい。

市長あいさつ

限られた時間だったが、ご熱心に懇談を行っていただいた。栄町の皆さんには何回もこうした機会をつくっていただきありがたく思っている。

今日は協働のまちづくりがなぜ必要か、そうしたプロセス過程の一環として、このような意見交換がいかに大切かということは、出席していただいた皆さんはお分かりだと思う。行政だけで解決できる問題が少なくなってきており、市民の皆様から様々なアイディア、知恵をいただき、合意形成をいただき、行政が成果につなげることができる。また昔のように財政が豊かな時代であれば、予算の力で解決できた問題も、これからは優先順位などを相談しながら進めていくという時代背景がある。こうした意見交換をいただき、提言いただいただくことが、私にとっても大事だし、市政にとっても大事であると思う。これからもこうした取り組みを進めていきたいので、よろしくお願いしたい。

また、今日は手が上げにくかったという方も、市長への手紙、市長へのメールという方法もある。私でなくても、担当課に直接言っていただければきちんと対応するようになっているので、安心して心配事、質問、意見、苦情をお寄せいただきたい。それにより私たちも市民の皆さんへのサービスを向上させていきたいと思う。

【終了 20 : 30】